

アグリ | ワーク | ポイント



茶指導販売課 福手裕三

肥料効果を
高める努力を！

来春に向けて健全な育成を

この時期の管理状況が来春の生産に大きな影響を与えます。来春の母枝となる二番茶葉あるいは四番茶葉を健全に生育させてください。また、土づくりも大切な作業になるので、土壌の様子を確認しましょう。

土壌改良材の施肥と深耕作業

土壌の酸性化を矯正するために、セルカや苦土石灰等を10a当たり100kg施肥してください。茶園の土壌診断をして、適正なpHになるよう土壌改善を図りましょう。茶園によっては、pH3.0以下の強酸性土壌の場合もあります。pHが一旦下がると補正に大変な資材と労力がかかるので、土壌改良材は毎年使うことをおすすめします。

深耕は、うね間の土壌を深さ30cm前後まで耕し、土壌の通気性や透水性などを改善する作業です。乗用型管理機などうね間が踏圧され、土壌の物理性が悪くなる場合があるので、深耕作業を検討しましょう。

・根の生育が盛んになる9月上旬までに

深耕を遅い時期に行うと根が回復しきれず、来年の一番茶に影響する場合があります。

・干ばつの恐れ

深刈りや中切りなど強いせん枝を行い負荷がかかっている茶園は、浅く耕すか実施を見送りましょう。

干ばつリスク

最終芽の生育時期にあたる梅雨から夏の気象は、茶樹の生育に大きな影響を及ぼします。特に水不足と高温障害については、かん水で対策しましょう。土壌の湿り具合を表すpF値という数値で判断し、通常は1.5程度ですが、値が2.1以上になると「かん水が必要」と判断されます。日中暑くても、水分を保持していれば葉の温度は冷たく、熱いと感じたらかん水のサインです。**pF値はJAおおいがわホームページで確認できます。**



病害虫防除

チャハマキ、コカクモンハマキの防除時期です。ダラダラ発生が予測される場合には、フェロモントラップの予察情報などを参考にしながら、早めに防除してください。使用薬剤の特性を生かし、散布のタイミングを計りましょう。

また、8月中下旬の少し涼しくなってきた頃から、カンザワハダニが発生することがあります。必要に応じて薬剤の散布を行ってください。